

# 令和6年度 小樽市立張碓小学校 学力向上改善プラン

## 1 実施期間

令和6年4月1日～令和7年3月31日

## 2 児童の実態

児童は、どの学年においても真剣に学習に取り組んでいる姿が見られる。児童アンケートでは「勉強はよくわかりますか」の設問で、約92%の児童が肯定的に回答している。

昨年度の全国学力・学習状況調査では、国語・算数共に全国平均正答率を上回った。特に算数では、全国平均を大きく上回り、算数科を中心に進めてきた校内研究の成果が現れたと考えられる。

結果を分析すると、国語では「条件に合わせて自分の考えを書く」「長文読解」に課題が見られた。

算数では「図形領域」に課題が見られた。

少人数ゆえに、真面目に学習に取り組む反面、個人差が大きくなっている。各学年で基礎・基本を確実に定着させるとともに、学習展開を工夫することで学習意欲を高め、学ぶ楽しさを味わう経験を積み重ねていくことが必要である。

読書活動の定着については、学校では全員が取り組んでいるが、自主的に読書するといった読書習慣が定着している児童は少ない傾向が続いている。

家庭学習習慣については、ほぼ全員が「家で勉強をしている」と答えているが、目指す学習時間が定着している児童は少ない。宿題や予習・復習など自主学習の取組を系統的に進めていく必要がある。また、土日（休日）の家庭学習時間の不足も全校的な課題である。

- 水曜日「算数タイム」、金曜日「国語タイム」の活用
- 読む力を養う「朝読書」の継続。

### ②手立ての工夫

- 宿題を工夫し、家庭学習と授業の連携を図る。

### (2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①子どもを主語にした学びの実現へ向けた授業改善の推進
  - 明確なめあて・課題・見通しを示した授業づくりを進める。
- ②教材化と学習展開の工夫を図るとともに、主体的な活動を多くつくり出すことにより、学びに向かう力・人間性等の涵養を図る。
  - 学習への関心・意欲を高める資料提示や活動の工夫。
  - 主体的に活動する場面を意図的・計画的に設定する。

### ③コミュニケーション能力の育成を図る

- ICTを効果的に活用した授業づくりを進めるとともに、自分の思いや考えを自分なりにまとめ、他者に伝える活動を繰り返し行う。
- 朝読書の機会等を活用し、児童の主体的、意欲的な読書活動の充実を図る。（図書司書の活用）

### (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- 「家庭学習の手引き」を活用し「学年×10分+10分」以上の家庭学習の定着を図る。また、休日の家庭学習時間を確保するよう働きかける。
- 望ましい生活習慣の定着へ向けた指導と働きかけを工夫し、きめ細かく支援する。
- 朝読書の時間を改善し、全校で読書習慣向上へ向けた働きかけを行う。

## 3 学年ごとの定着目標（数値目標）

### <国語科>

学年	定着目標
1年	・配当漢字の読み書きの定着率を85%以上にする。
2年	・配当漢字の読み書きの定着率を85%以上にする。
3年	・配当漢字の読み書きの定着率を85%以上にする。
4年	・配当漢字の読み書きの定着率を85%以上にする。
5年	・配当漢字の読み書きの定着率を85%以上にする。
6年	・配当漢字の読み書きの定着率を85%以上にする。

### <算数科>

学年	定着目標
1年	・学年の計算問題の定着率を80%以上にする。
2年	・学年の計算問題の定着率を80%以上にする。
3年	・学年の計算問題の定着率を80%以上にする。
4年	・学年の計算問題の定着率を80%以上にする。
5年	・学年の計算問題の定着率を80%以上にする。
6年	・学年の計算問題の定着率を80%以上にする。

### <学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・家庭学習時間「学年×10分+10分」を達成する児童の割合を80%以上にする。 ・1日1時間以上スマホ・インターネットをする児童を55%以下にする。
2年	
3年	
4年	
5年	
6年	

## 4 目標を達成するための具体的な方策

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①朝学習の充実

## 5 実施計画

年月日	計 画 内 容
R6年 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「家庭学習の手引き」の周知</li> <li>◇チャレンジテストの実施</li> <li>◇全国学力・学習状況調査過去問題の実施</li> <li>◇子どもを主語にした授業改善の取組（年間を通して）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの効果的な活用方法の共有</li> <li>・繰り返し丁寧に取り組むことで確かな定着</li> <li>・インプット・アウトプットの活動を重視</li> <li>・明確なめあて・課題・見通しを示した授業づくり</li> <li>・家庭学習の推進</li> </ul> </li> </ul>
	○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
	○全国学力・学習状況調査の実施
	○全国学力・学習状況調査 自己採点
5月	
6月	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇チャレンジテストの実施、分析、改善策の提示</li> <li>◇朝の全校10分間読書、読み聞かせ</li> <li>◇生活リズムチェックシートの実施、集計、分析</li> </ul>
	○標準学力調査結果分析
	○全国学力・学習状況調査結果分析
	○保護者へ調査結果の説明
9月	
10月	・改善プランの見直し
11月	・校内研究授業の実施
12月	生活リズムチェックシートの実施、集計、分析
	・2学期末チャレンジテストの実施
R7年	○学力向上改善プランの評価・改善
	・生活リズムチェックシートの実施、集計、分析
	・3学期「確認テスト」の実施
	・令和7年度学力向上改善プランの策定

## 6 評価方法

- (1) 全国学力・学習状況調査、標準学力調査
- (2) チャレンジテスト
- (3) 各教科の単元・学期末テスト、確認テスト（国・算）
- (4) 生活リズムチェックシート
- (5) 児童アンケート